

『一身二生』の時代になった ～『人生100年』の時代では、「仕事人生も／人生も二回ある」と考えます～

「新たな学び」 & 「再チャレンジ」によって
『二回目』の人生を生き、『一身二生』を実現した先人がいた

「江戸の33年間」 & 「明治の33年間」を生生き抜いた『福沢諭吉』（1835～1901年）は、著書「文明論之概略」の中で、開国・維新を機に、漢学／蘭学から英学へと研究分野が大きく移り変わった自らの半生を、「一身にして二生を経るが如く・・・」と評した

福沢
諭吉

江戸時代後期、日本最初の近代地図を作製した『伊能忠敬』（1745～1818年）は、「家業」（酒造等）の商いと「名主」（佐原村）の重責を務め上げ、49歳で隠居した後に、天文学を新たに学び、測量を始めたのは55歳からだった。まさに、『一身二生』の人生だった

伊能
忠敬

BST
提案

